

セミナーの現象の場で田池留吉、アルバートに心を向けていく時と、家で心を向けていくときとやはりどこかが違うのです。田池留吉の肉の存在がそこにあるかないかが問題なのでしょうか。喜びの度合いが違うのです。心に響いてくるものが違うのです。田池留吉が肉をもつ理由がそこにあるような気がします。家で心を向けていって感じられる波動はほんのほんのわずかなもののような気がします。それを、感じやすいように伝えてくださる存在、それが田池留吉だと思いました。愛のエネルギーそのものが肉をもった感じです。次元が違うことが、はっきりと感じられるのです。肉でいろいろな思いを出してきました。でも本当の私は知っていたのです。田池留吉が何者かを。闇の私はその存在を恐れ必死で抵抗してきました。どんな思いを出してもすべて受け入れられ、気付きへと変換していく愛のエネルギー、ただもうまいりましたとしか、言葉はありません。

私は肉こそ自分と頑張ってきました。私の意識そのものを愛し続けてくださる田池留吉の意識に、背を向け続けてきました。肉の思いが強いゆえに、田池留吉の肉の存在が必要でした。肉の思いが薄れた時にまた違った波動を感じられるようになると思います。